

マイウェイ

No.134
2025

ミニシアターに行きたい！

映画は映画館で観て初めて完成する芸術
小田原シネマ館名誉館長 蓑宮武夫



▶かつて横浜市中区伊勢佐木町にあった人気映画館「横浜日劇」を描いた壁画。横浜松坂屋の屋上に展示されていたこの絵は、同店の閉店後、シネマ・ジャック&ベティが引き取り、地域の映画遺産として同館階段上に展示されています。

▶表紙の写真は、川崎市アートセンター映像館。

▶表紙の言葉は、小田原の駅前に映画館を復活させた蓑宮武夫さん（故人）が残した、映画愛を物語る名台詞です。

令和7年6月発行 ● 発行人 片岡達也 ● 編集人 田村正志 ● 発行 公益財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市区西みなとみらい3-1-1 ☎045-225-2171（直通） ㈱神奈川新聞社

ミニシアターに行きたい！

川崎市アートセンター映像館の客席にて。話を聞いた大矢敏さん（右手前）とアートセンターのスタッフ。休館日の機材チェックの合間にお邪魔しました。

第48回日本アカデミー賞の最優秀作品賞『侍タイムスリッパ一』^(※1)は、2024（令和6）年8月にたった1館のミニシアターでひっそりと公開され始めた作品でした。自主制作で宣伝もままならない中、ミニシアターに通う映画ファンから口コミが広がり、またたくうちに大手配給会社も配給に加わって驚異的なロングランヒットとなりました。作品の良さもさることながら、ミニシアターには、名作を見逃さない目や、映画を育てる土壌があるようです。今回のマイウェイでは、神奈川のミニシアターを訪ね、その魅力を探ってみたいと思います。

構成・文：福田敬道、藤井賢治／デザイン：小山亜紀子／撮影：小林輝久、鈴木教之

ミニシアターでしか観られない映画

日本の映画館は大きく2種類に分けられます。^(※2)大手の映画会社の系列で大規模に展開するシネマコンプレックス（シネコン）と、大手と資本関係のない独立系のミニシアターです。シネコンは大手が制作したマス向けの映画を上映し、ミニシアターでは作品の新旧を問わず、その館の独自の眼で選択された作品がプログラムされます。

『侍タイムスリッパ一』のように、ミニシアターとシネコンの両方で公開されるケースも増えていますが、

1年間に公開される1000本以上の作品のうち7割は小規模公開作品として、ほぼミニシアターでしか観ることができない映画です。

ミニシアターでしか観られない世界

川崎唯一のミニシアター、川崎市アートセンター（川崎市麻生区）の映像ディレクター、大矢敏さん（65）は、三百人劇場（東京都文京区、2006年に閉館）や神保町シアター（東京都千代田区）という日本の代表的なミニシアターの運営に携わってきた生粋の映画マンです。



映画のフィルムは複数の缶に分けて映画館に届きます。映画館の映写技師がフィルム編集機（上記写真）で上映前につなぎ、上映後に元のように分割します。

ロビーには今村昌平監督が受賞したカンヌ映画祭のパルム・ドール(最高賞)のトロフィーが展示されています(1983年「楢山節考」と1997年「うなぎ」)。今村監督は、新百合ヶ丘にある日本映画大学(前身校は日本映画学校)の創設者でもあります。



川崎市アートセンターのフロント（上）と映画のチラシが並ぶ情報コーナー。

「ミニシアター映画にはドキュメンタリー作品が多いんです。昨年公開された『どうすればよかったか?』^(※3)は、監督が難病を患う姉と両親を20年に渡って撮り続けた作品で、本当に一生に一度しか作れない類のドキュメンタリーです。ほかにも日本

最古の神社の一つ諏訪大社(長野県)の、謎に満ちた神事を記録した作品『鹿の国』^(※4)は民俗学的にも貴重な映像で、これもミニシアター映画でなければ残せない作品でしょう。これらの2作は大方の予想に反して大ヒットし、私もミニシアターの客層の関心の高さと幅広さを再認識させられました。」と語ります。

また、海外の現実を教えてください。作品も多いと言います。

「2001(平成13)年5月にカンヌ映画祭で上映された『カンダハール』^(※5)という作品には、当時まだ知られていなかったタリバン政権下のアフ

ガニスタンの様子が撮影されていて、同年の9月11日にアメリカで同時多発テロ事件が発生するや、世界から大注目されることになりました。昨年(2024年)ベルリン映画祭で上映された『ノー・アザー・ランド』^(※6)も中東の複雑で不条理な現実を目の当たりにさせられた作品です。」

映画公開後、『ノー・アザー・ランド』の4人の共同監督の一人がイスラエル軍に暴行を受け連行される事件が発生しました。映画で訴えたテーマが映画と地続きの現実として、さらに深い衝撃を世界に与えました。

※1 待タイムスリッパ(2024年日本、監督・安田淳) 幕末の侍が現代の時代劇撮影所にタイムスリッパし奮闘する、笑って泣けるコメディ映画。自主制作映画の日本アカデミー最高賞受賞は史上初。

※2 映画館の分類 コミュニティシネマセンターによると、シネコン、既存館、ミニシアター、名画座に分類するものの、近年はシネコン以外を総称してミニシアターと呼ぶ傾向があるそうです。

※3 どうすればよかったか?(2024年日本、監督・藤野知明) 医学生の子が統合失調症を発症したが、医師である両親は事実を受け入れられず、精神科の受診から姉を遠ざける。20年の経過を弟である監督が疑問を抱えながらも撮り続けた記録。

※4 鹿の国(2025年日本、監督・弘理子) 「自然と祈り」をテーマにするドキュメンタリー監督が、75頭の鹿の首を捧げる、諏訪大社の「御頭祭(おんとうさい)」を記録し、中世に途絶えた「御室神事(みむろしんじ)」の再現に挑む。

※5 カンダハール(2001年イラン、監督・モフセン・マフマルバフ) タリバン政権下のアフガニスタンから脱出した主人公は、残された妹のため、再び危険なカンダハールに向かう。事実を交えたドラマ。

※6 ノー・アザー・ランド 故郷は他にない(2024年ノルウェー・パレスチナ、監督・バーセル・アドラー他3人) 故郷を守りたいパレスチナ青年に協力するイスラエル青年の命懸けのドキュメンタリー。

ミニシアターブームから40年 映画文化を体験する場に

1970年代に、独立系映画館のはしりである岩波ホールの高野悦子総支配人と、フィルム・ライブラリー助成協議会の設立者川喜多かしこ氏が、「世界の埋もれた名画を上映しよう」というエキブ・ド・シネマ運動を始め、80年代にはミニシアターブームが広がりました。大矢さんも懐かしそうに語ります。

「新潟の高校生だった私でさえゴダール監督の作品が観たくて、受験の下見に行くと親から旅費をせしめて(笑)、東京に出かけたものです。」

ブームから40年以上を経てここ10年の間、ミニシアターは全国的に増えています。嗜好の多様化とともにそれぞれのミニシアターの個性が支持されているようです。

「上映後のトークショーや、映画ファン同士が語り合える場を作るなど、各館が独自に多彩な取り組みを展開しています。ここ(川崎市アートセンター)でもショートムービーや子ども向けにアニメーションづくりのワークショップを開いて、たいへん好評なんですよ。」

ミニシアターは、映画を観るだけでなく、映画に関わる体験を楽しめる場になっています。

※7 エキブ・ド・シネマ運動 高野悦子氏、川喜多かしこ氏が中心となり、日本映画の質の向上を目的に、大手が手掛けない世界の名作を日本に紹介し、優れた日本映画を世界に送り出す活動が続けた。

※8 ゴダール監督 ジャン＝リュック・ゴダール。フランスの映画監督。1930〜2022。大矢さんが高校時代に東京に観に来た『勝手にしやがれ』ほか代表作多数。20世紀の最も重要な映画監督の一人。

※9 ミニシアターの増加 ミニシアターは140館244スクリーン。2014年から2023年の10年間で21館47スクリーンも増加した(コミュニティシネマセンター刊映画上映活動年鑑2023)。

対話するミニシアター



シネマ・ジャック&ベティ(横浜市中区)

映画ファンの声に耳を傾ける

「ミニシアターはマニアの聖地のようでハードルが高い」という声も聞きますが、どうなのでしょう。

伊勢佐木町の裏通りのミニシアターで、今日もロビーに立つ男性がいます。シネマ・ジャック&ベティ(以下J&B)の支配人・梶原俊幸さん(48)です。ウェーブした銀髪にスリーピースというお決まりのいでたちで、来場客と言葉を交わします。

梶原さんは、いくつもの映画祭を仕

20代でシネマ・ジャック&ベティの経営者になり、もうすぐ20年という梶原支配人。



試写室から見た上映風景。



J & Bのエントランス(上)とロビー(左上)。

シネマ・ジャック&ベティ 2024 年間ベスト 10

1	侍タイムスリッパ	2024年JPN	194点
2	枯れ葉	2023年DEU・FIN	164点
3	福田村事件	2023年JPN	144点
3	ロボット・ドリームズ	2023年ESP・FRA	144点
5	どうすればよかったか?	2024年JPN	122点
6	悪は存在しない	2023年JPN	116点
7	コト、はじまりの夏	2022年IRL	111点
8	青春ジャック 止められるか、俺たちを2	2023年JPN	109点
9	イル・ボスティノ 4Kデジタル・リマスター版	1994年ITA・FRA	80点
10	正義の行方	2024年JPN	76点

J & Bが、今後の作品選定の参考に来場客に呼びかけた投票の集計です。3位は「福田村事件」と「ロボット・ドリームズ」が同点でした。

コミュニティが生まれる場所

次第に、映画の話をもっと語り合いたいとの声が増え、マネージャーと若手スタッフが「映画を観て話をする会」を始めました。一緒に映画

を観て、一緒に語り合える会です。会場は伊勢佐木町のレトロな喫茶店。不定期開催で、参加者枠も少人数に抑えています。映画鑑賞の楽しみを深める企画と大好評です。

こうした取り組みを通して気づいたことがあると梶原さんは言います。

「シネコンをエンターテインメント・ビジネスと言うなら、ミニシアターはコミュニティ・ビジネスだと思いませんか。」

映画館がある街であるために

そんな思いをスタッフと話し合い、「()&シネマ」というキャッチ



J & Bサロンは、地方や海外からオンラインで参加する常連もいて、90分では足りないほどの盛り上がりです。

映画『誰かの花』[2021年日本、脚本・監督:奥田裕介] J & B30周年記念に制作された劇場公開作品。J & Bのドキュメンタリーではなくオリジナルドラマ脚本です。
写真提供:シネマ・ジャック&ベティ



J & B25周年記念に創刊した季刊誌。売店にて販売中。

お客さんに教えてもらう

映画の町・伊勢佐木町で「洋画は日劇、邦画は名画座」との謳い文句で親しまれた横浜名画座が、1991(平成3)年に「横浜の名物支配人」福寿ふくじゅ久雄ひさおさんの手でシネマ・ジャック&ベティとして生まれ変わり、2005(平成17)年に一時休館した後の2007(平成19)年に、当時20代だった梶

原さんが経営を引き受けました。本人は、「映画館経営の経験がなかった」ので、お客さんにいろいろ教えてもらうしかなかったんです。」と笑います。

ロビーでの交流だけでなく、月に一度、10人ほどの希望者を募り、映画や館の運営への意見を聞くJ & Bサロンという会を長年続けてきました。

「話題はさまざまですが、オンラインチケットや指定席制など新しい仕組みを導入する際には、サロンでの意見に助けられました。」

※1 福寿久雄支配人 1935(昭和10)年 横浜生まれ。多数の映画館を運営し、映画製作や新人監督の育成にも尽力する。



今年(2025年)のゴールデンウィークに開催された逗子海岸映画祭の様子。

映画祭をつくるミニシアター

シネマアミーゴ(逗子市)

映画祭は朝のビーチクリーンから

ゴールデンウィークの朝6時に逗子海岸に集まる人たちがいます。逗子海岸映画祭が開かれるこの期間は、映画祭の運営者や地元のボランティア団体による毎朝のビーチクリーンが恒例です。

逗子海岸映画祭は、地元のシネマアミーゴが立ち上げた人気イベントです。2009(平成21)年にオープンしたシネマアミーゴは逗子海岸の住宅地にある木造の洋館で、外観か



(上) 売店のサンドイッチは、近所のパン工房カメヤ謹製。その他のスナックも手づくり店から仕入れるJ&Bおすすめのおいしさです。

(左) 1階の旧券売窓口では、スタッフが作った紙製の「支配人くん」がお出迎えします。

フレーズも生まれました。

「あなた&シネマ、幸福&シネマ、空腹&シネマ(笑)……この街がずっと映画館がある街であるために、カッコの空欄にはなんでも入れます。」

売店のパンやスナックは地元の手づくり店から仕入れ、地元の中学生が短編映画を作ったと聞けば貸し切りで上映会を開き、地元の大学と「映画館のある街作りプロジェクト」なども始まりました。

カッコには同業者も入ります。ミニシアターや市民上映団体と「かながわ映画部(仮)」を組んで、学生料金500円期間を実施し、地方のミニ

シアターと映画で交流する試みなど、ほかにはない企画が好評です。

「国内の映画興行は、ほぼコロナ禍前に戻ったとの報道はシネコンの話です」と、梶原さんは今日もロビーで来場者と対話が続けます。

※2 市民上映団体 映画祭の実行委員会など、映画館やホール施設を借りて映画を自主上映する団体。

※3 かながわ映画部(仮) 「リアルな劇場」だからできる映画カルチャーの振興活動を進める。(仮)までが正式名称。

※4 ミニシアター地域交流上映会 地方のミニシアターと互いの地域を舞台にした映画を上映し交流する取り組み。過去に沖縄、尾道、高崎などと実施した。



パズルのテント。

特設のスケートランプ。



エントランスには映画看板も。



逗子海岸映画祭をけん引する志津野さん(左)とシネマアミーゴ代表の長島さん。



シネマアミーゴの個性的な外観。店内では、カウンター席でもシネマ席でも、好きな場所で映画を楽しめます。



ローカルと自立

「新しいことや面白いことは都市部だけでなく逗子にもあります。中央に依存せずローカル(地元)で自立できる拠点にしたかったんです。」

この「ローカルと自立」がシネマアミーゴのキーワードです。店の内装の多くはDIYで手掛け、地元の職人が作った家具を置き、地元の食材を優先して仕入れ、太陽熱温水器も取り付けました。

「都市部に人やモノが集中するより、それぞれの地域で自立した文化や経済圏を作った方が持続可能な社

らはここで毎日映画を上映しているとは思えません。中にはバーカウンターがあり、ソファやアンティークなチェアが並ぶ先にプロジェクター用のスクリーンが下がります。わずか22席ですが、映画を観ながら食事のできるシネマカフェとして、平日は地元から、週末になると県外からも、ほかにはない心地よさを求めている人が集まります。

映画は人を動かす

シネマアミーゴの代表・長島源さん(46)に聞きました。

「この店を開く前のことです。『六

ヶ所村ラブソディ』という映画に刺激されて、サーファーやミュージシャンと、各地でイベントを打ちながら六ヶ所村を目指すツアーに参加したことがあるんです。映画には人を動かす力があるんですよ。」

映画に動かされ旅をする中で、カルチャーを生む拠点が必要だと考え、シネマアミーゴをオープンしました。映画の上映はもちろん、ライブもイベントもワークショップも開くマルチカルチャー空間として、世代や地域に縛られない、自由なコミュニケーションが可能になったと言います。

会に近づくんじやないかと思いませんか?」

世界とインターローカルな関係

「店のオープン翌年に映画祭を始めました。せっかちでしょう(笑)。共同経営者のひとりが、GWの逗子海岸はポテンシャルだらけだぞって力説して、みんなを乗せちゃったんです。」

逗子海岸映画祭は2010(平成22)年にはじまり、コロナ禍で中止した年もありながら今年で14回目、12日間の期間中、来場者は1万5千人に上ります。300名の野外スク



通路にも映画館版がずさり。



親子で織物のワークショップ。



夕暮れに始まったピアノのライブ。



メリーゴーランドにはピエロも登場。



飲食テントも豊富。



会場内のすべての場所が海のテラス席です。



インターローカルな関係の仲間たち。
愛媛の果樹農園の若松さん(左の写真)、写真家のRIPさんとバリのエカさん(右の写真)。



第14回 逗子海岸映画祭の上映作品

ミッション・マンガル	2019年IND
崖っぷちチームの火星打上げ計画	
フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法	2017年USA
さかなのこ	2022年JPN
海を駆ける	2018年JPN・FRA・IDN
ブリング・ミンヨー・バック！	2022年JPN
エンドレス・サマー	1964年USA
テルマ	2017年NOR・SWE・DNK・FRA
ガッジョ・ディーロ	1997年FRA・ROU
海の上のピアニスト	1998年ITA
グリオー 魂を奏でる楽士ー	2012年USA
ロスト・イン・トランスレーション	2003年USA・JPN
Beyond "documenta fifteen"	2024年JPN
エゾシカ猟師 2024	



逗子海岸映画祭を観た団体から「こんなイベント空間を創ってほしい」と誘われ、国内はもとよりスペイン、オランダ、インドネシアなどでも旅する映画会を開いてきました。「どこでも会場設営から自分たちで手掛けます。今年は準備段階からインドネシアのコミュニティが来て、いっしょに杭を打ったりテントを張ったりしてくれています。映画祭を通じてローカルとローカルが直接つながる、インターローカルな関係を大事にしたいんです。」

一日の終わりを映画で締めくくる

逗子海岸映画祭で上映される作品は実に多彩です。今年上映された作

品も、インドの火星探査計画をドラマ化した『ミッション・マンガル』^(※1)、タレントで魚類学者のさかなクンの半生を描いた『さかなのこ』^(※2)、ハリウッドのベテラン俳優と若い人妻のつかのまの恋物語『ロスト・イン・トランスレーション』^(※3) などバラエティに富んだ12本です。

「この映画祭は毎日異なるテーマを設定しています。今年の初日はインドを感じるINDIA DAY、三日目は子どもたちが楽しめるKIDSDAYという感じです。」

それぞれの日を担当するチームが、その日のテーマに沿ってライブ

県内

ミニシアターガイド

ある支配人は「映画館の暗闇は、別の人生を味わう場所なんです」と教えてくれました。県内の13の施設は、いずれも個性的な取り組みで、ほかにない映画体験を用意してくれています。ぜひ気になるミニシアターに足を運んでみてください。



1 川崎市アートセンター映像館 (川崎市麻生区、2007年オープン)

ガラス張りのモダンなアート空間に、小劇場も併設された、川崎市内唯一のミニシアター。

川崎市の文化振興の拠点として、ミニシアターと小劇場が併設された施設。映像館では世界の上質な作品がプログラムされ、ロビーには今村昌平監督が受賞したカンヌ国際映画祭パルム・ドールのトロフィーも常設展示。同地域の「KAWASAKIしんゆり映画祭」は市民が作る映画祭として30年続く街ぐるみのイベントです。

■川崎市麻生区万福寺6-7-1。TEL.044(955)0107。小田急線新百合ヶ丘駅徒歩3分。専用駐車場なし。第2月曜・年末年始休館。映像館は月曜休映。111席+車いす席2席、入替制、売店なし。



ステージなどのコンテンツを組み立て、一日の終わりのテーマを反映した映画で締めくくることが多い。

「シネマアミーゴがオープンした頃、まだ幼かった子どもたちが二十歳を過ぎて、映画祭の一端を担ってくれています。5日目のYOUTH CULTURE DAYでは、二十代のメンバーが選んだ映画が面白かったですね。日本民謡とラテン音楽を融合するバンドのドキュメンタリー映画でした。」

ローカルなシネマカフェが展開する映画祭は、さまざまな世代や嗜好が混在する、多様性に満ちた唯一無

二の空間です。

映画館は地域の共有メディア

「1960年代には逗子市にも映画館が3館もあったそうです。休日に親子で出かけたり、デートしたり、映画館は地域の共有メディアだったんですね。」

大衆娯楽の王様だった映画を、スマホの小さな画面で観るだけではもったいないと、ミニシアターという街の映画館がそれぞれの取り組みでスクリーンで観る映画の楽しみ方をまだまだ広げてくれています。

※1 ミッション・マンガル 崖つぶちチームの火星打ち上げ計画(2019年インド、監督:ジャガン・シャクティ) インドの宇宙開発事業でアジア初の火星探査ミッションを成功させた実話を映画化。

※2 さかなのこ(2022年日本、監督:沖田修一) 綾瀬市出身のさかなクンの半生を、女性俳優のんが好演。

※3 ロスト・イン・トランスレーション(2003年アメリカ、監督:ソフィア・コッポラ) ハリウッドスターと見知らぬ人妻の、東京での淡い出会いと別れの物語。

※4 プリンク・ミンヨー・バック!(2022年日本、監督:森脇由二) ラテンの日本民謡バンド・民謡クルセイダーズに、5年間密着したドキュメンタリー。

5 シネマ・ジャック&ベティ (横浜市中区、1991年オープン)

首都圏の映画ファンならだれもが知る有名館。
「横浜のJ&Bで観たい」と言われる古参ミニシアター。



■横浜市中区若葉町3-51。TEL.045(243)9800。京急線黄金町駅徒歩5分、市営地下鉄阪東橋駅徒歩7分、JR関内駅徒歩15分。専用駐車場なし。元日休館。96席+車いす席1席(ジャック)、115席+車いす席1席(ベティ)。入替制、売店あり。

県 内のミニシアターでは最古参の一館。昭和20年代からの映画館を、町おこし活動に関わった当時20代の若者が承継。スクリーンはジャックとベティの2スクリーン。館内の壁面には上映作品のライナーノーツが多数掲示され、待ち時間も映画世界にどっぷり。上映前後のロビーで支配人と気軽に言葉交わらせる楽しみも。

6 港南台シネサロン (横浜市港南区、1987年オープン)

県内で最も歴史がある昭和からのミニシアター。
のんびりと普段着で映画を楽しめる地域密着型映画館。

港 南台駅前のショッピングセンター内に1987(昭和62)年に開館して以来、地域から愛されるエリア密着型のミニシアター。2スクリーンを構え、アート系の作品やドキュメンタリーから、ドラえもんなどの子ども向けアニメーションまで、家族でも安心して楽しめるラインナップ。座り心地満点のシートは、フランスの劇場いす専門メーカーから直輸入。整理券の番号順に座席を選べる整理券制。

■横浜市港南区港南台3-3-1港南台214ビル3階。TEL.045(831)3377。JR港南台駅徒歩3分。バース立体駐車場と214ビル第2駐車場で3時間サービス。元日休館。103席(スクリーン1・2とも)、入替制、売店なし。



7 CINEMA AMIGO (逗子市、2009年オープン)

飲食しながら映画が楽しめるシネマカフェ。
映画以外のコンテンツも多彩なトータルカルチャー空間。



■逗子市新宿1-5-14。TEL.046(873)5643。JR逗子駅徒歩15分、京急線逗子・葉山駅徒歩13分。京急バス葉山海岸回り・富士見橋バス停徒歩3分。専用駐車場なし。逗子海岸映画祭の準備・期間中休館。22席(チェア&ソファ)、店内メニューや併設店での購入品の飲食可。

逗 子海岸の住宅地に建つ洋館で、映画を見ながら飲食が楽しめるシネマカフェ。バーカウンターの奥にクラシックなチェアとソファが並び、リビングルームのような居心地の良さがある。上映中の作品にちなんだランチが供されるイベントなど、シネマアミーゴならではの企画も人気。映画以外にライブやパーティーも企画し、スペースレンタルも可能。

2 シネマノヴェチェント (横浜市西区、2009年オープン)

わずか28席の「日本最小のフィルム映画館」ながら、
マサラ上映やゲストとの懇親会など、貴重な映画体験を提供する。



■横浜市西区中央2-1-8エスプラスビル2階。TEL.045(548)8712。京急線戸部駅・相鉄線西横浜駅徒歩10分。専用駐車場なし。原則火曜休み(臨時休業あり)。28席、入替制、売店なし、バー&レストラン併設。

下 町情緒が残る藤棚商店街の奥に位置するミニシアター。フィルム上映にこだわったプログラム編成で、注力するインド映画では、観客が上映作品に合わせて歌い踊る「マサラ上映」が名物。中でもほぼ毎週末に開かれる映画監督らがゲストのトークショーや懇親会など、少人数で濃厚な映画体験が人気です。

3 kino cinéma 横浜みなとみらい (横浜市西区、2019年オープン)

最新のシートと映像・音響設備で、3つのスクリーンを展開。
レトロな風情とは一線を画す最新鋭のミニシアター。

都 市のオアシスとして「ブックス&カフェとシネマのある空間」がコンセプトで、同ビル1階のTSUTAYAから入場する。居心地の良さにこだわり、シートも上映設備も特注品。特に音の良さには定評があり、爆音、微音(ピアノなど)はもちろん、無音の静寂さは群を抜く。劇場内は光触媒で抗菌・抗ウイルス仕様。



■横浜市西区みなとみらい4-7-1みなとみらいミッドスクエア2F(TSUTAYA横浜みなとみらい店2階)。TEL.045(264)4572。みなとみらい線みなとみらい駅1番グランモール出口徒歩1分。ビルに駐車場有。無休。55席+車いす2席(シアター1)、111席+車いす席2(シアター2・3)。入替制、売店あり。

4 横浜シネマリン (横浜市中区、2014年オープン)

閉鎖館を映画ファンが買い取り、未経験ながら再生して10年。
映画愛好家からも女性客からも支持される映画館。



■横浜市中区長者町6-95(地下1階)。TEL.045(341)3180。JR関内駅・京急線日ノ出町駅徒歩5分、市営地下鉄伊勢佐木長者町駅3B出口徒歩2分。専用駐車場なし。元日休館。102席。入替制、売店あり。

伊 勢佐木町が「映画の街」と呼ばれていた時代からの老舗館がなくなると聞いた映画好きの主婦が、預金をはたいて2014(平成26)年に引き継ぎました。古いビルの地下ながら、女性がひとりでも気軽に入れる明るいミニシアターに改装し、「作品選択にこだわりを感じる」と女性客からも映画ファンからも支持されるミニシアター。中でも音響設計の見事さが絶賛されています。

11 小田原シネマ館 (小田原市、2024年オープン)

「映画は映画館で観て初めて完成する芸術」と、
小田原駅前の栄町に、待望の街の映画館が開館。



■小田原市栄町2-7-30 みのさん第一ビル1階。TEL.0465(46)6371。JR小田原駅東口徒歩5分。専用駐車場なし。火曜休館。40席。入替制、売店あり。

小田原駅周辺に8館もあった映画館が絶えて20年。地元の映画愛好家らが私財を投じ、万手を尽くして2024年に同館を開館した。レトロにリノベーションされ「街の映画館」らしい風情があります。名画、ミニシアター系、音楽系、季節モノなど1日に4～5本の作品をバランスよく上映。「映画は映画館で観て初めて完成する芸術」を身上に、「映画館のある街から、映画の街へ」と、地域の文化発信の一翼を担います。

12 あつぎのえいがかんkiki (厚木市、2018年オープン)

リクエストコーナーや驚音上映など
kikiならではの工夫と機材で地域に根差した映画館。

ミニシアターながら3つのスクリーンがあり、年に380本もの作品を上映。観たい映画のリクエストを受け付け、話題作から懐かしの名作まで幅広いラインナップで展開。また国内最大級の21 $\frac{1}{2}$ インチウーファーによる驚音（きょうおん）上映は、体が振動するほどの重低音が魅力で、kikiならではの目玉の一つです。



■厚木市中町2-12-15 アミューあつぎ 9F。TEL.046(240)0600。小田急小田原線本厚木駅 東口地下通路直結徒歩5分。専用駐車場なし。元日休館。154席・車いす席含（スクリーン1）、58席・車いす席含（スクリーン2）、112席・車いす席含（スクリーン3）。売店あり。

Brillia SHORTSHORTS THEATER ONLINE オンラインシアター (横浜市、2008年オープン、2018年オンライン化)

世界のよりすぐりのショートフィルムが、オンラインですべて無料。
シネマチックなひとときを、PCで、スマホで、どこでも。



「映画は長さではない! ショートフィルムは、人生における気づきや学びにふれています。ショートフィルムは、観る人に心の栄養を届けるサブリメントムービーです。」という、代表で俳優の別所哲也氏の言葉どおり、ショートフィルム(5分～30分程度の短編映画)には、喜怒哀楽をギュッと絞った濃縮果汁のような味わいがある。2008年にみなどみらいにオープンしたブリリア・ショートショートシアターが、2018年にオンライン化されたウェブ映画館。



8 鎌倉市川喜多映画記念館 (鎌倉市、2010年オープン)

緑の中の和風建築で、敷地には散策できる小道も。
名画の上映のほか企画展示や書籍・資料の閲覧もできる。



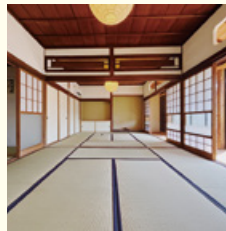
■鎌倉市雪ノ下2-2-12。TEL.0467(23)2500。JR・江ノ電鎌倉駅徒歩8分。専用駐車場なし。月曜(月祝は翌平日休館)・年末年始・展示替期間など休館。51席、入替制、売店なし、展示室(常設展示と企画展示)・情報資料室あり。

国際的映画人として、日本映画界の発展に大きく貢献した川喜多長政・かちこ夫妻の邸宅跡地に開館。映像資料室で上映される作品は、古今の名作から選りすぐったプログラムで、上映だけでなく映画資料の展示や映画関連の書籍・雑誌を閲覧できる資料室も用意されています。記念館の奥の旧川喜多邸別邸は、川喜多夫妻が海外の監督や俳優をもてなした場で、春と秋に一般公開されます。

9 鎌倉シネマ(古民家ゆりいか) (鎌倉市、2024年オープン)

築100年の古民家の16畳の広間で映画を観る。
劇場公開された上質なドキュメンタリー作品のみを上映。

ドキュメンタリー映画の監督と美術家が運営する、古民家を再生した文化スペース「古民家ゆりいか」。鎌倉シネマは、ここの座敷を劇場とするミニシアターです。「映画は世界を映す窓のようなもの」だと、厳選したドキュメンタリー作品のみを上映。ゆりいか主宰の上映やイベントの他、「古き良きもの」と、新しい波が溶け合う文化スペース」としてスペースレンタルも可能で、オープンデー（内覧日）も設定。



■鎌倉市長谷2-15-14。TEL.090(6543)9707。問合せはHPからフォームにて。江ノ電長谷駅徒歩2分。専用駐車場なし。不定休。上映会は15人定員、要予約(メールにて)、入替制、売店なし、カフェメニューあり。

10 シネコヤ (藤沢市、2017年オープン)

「映画と本とパンの店」映画はソファでゆったり楽しめる。
行きつけのサードプレイスにしたいちょっとレトロな空間。



元写真館だった建物をリノベーションした「映画と本とパンの店・シネコヤ」。1階には自家製酵母の手づくりベーカリーがあり、1階奥と2階には自由に閲覧できる3,000冊の本を揃えた書棚が並ぶ。中でもキネマ旬報のバックナンバーの充実ぶりは映画ファン必見。映画は2階のソファ席にて1日に3～5作品を上映。カフェのみの利用もできますが、映画と本と手づくりパンをゆっくり味わいたいスポットです。

■藤沢市鵠沼海岸3-4-6。TEL.0466(33)5393。小田急江ノ島線鵠沼海岸駅徒歩3分。専用駐車場なし。不定休。22席先着番号札制。カフェメニューあり。1階カフェ利用のみ可。



県内の映画祭

名作の特集上映や未発表作のコンペなど、映画祭にもそれぞれ特徴があります。映画祭は映画の楽しみ方のグッドなガイドです。開催時期などは過去の実績を参照しています。今後の予定は各映画祭のホームページなどでご確認ください。

1月

横浜映像天国

公募したショートムービーの上映、音楽、落語、演芸など。

2月

よこはま若葉町多文化映画祭

地域の歴史や国際的な課題、文化的多様性を考える映画祭。

ヨコハマ映画祭

映画好きのサラリーマン3人が始めた手作りの映画祭。

横浜中華街映画祭

中華街が舞台のプロットのコンペで、グランプリを映像化する。

3月

横浜フランス映画祭

国内最大級のフランス映画の祭典。

大倉山ドキュメンタリー映画祭

作り手、市民、地域が集まりボランティアで開催する映画祭。

YAMATO FILM FESTIVAL

大和市を舞台にしたショートフィルムコンペ。

4月

逗子海岸映画祭【4・5月】

GWの逗子海岸で10日間にわたる野外フェス形式の映画祭。

5月

横浜国際映画祭

赤レンガでのレッドカーペットで始まる国際都市横浜らしい映画祭。

10月

ヨコハマ・フットボール映画祭

スポ根から社会派ドキュメンタリーまでサッカー映画に特化。

茅ヶ崎映画祭

街と人がつながる、手作りの映画祭。

KAWASAKI しんゆり映画祭【10・11月】

“市民（みんな）がつくる映画のお祭り”。

12月

予告篇 ZEN 映画祭

鎌倉五山の境内を会場に、劇場公開作品の予告編だけを上映。

横浜インディペンデントフィルムフェスティバル

若手映画監督の輩出をめざしたコンペに特化した映画祭。

海に浮かぶ映画館

横浜の海に浮かぶ船で映画鑑賞が楽しめるユニークな上映会。